企業名:JVCケンウッド

レポート名：統合レポート2021

1．この会社が目指す姿が理解できるか
JVCケンウッドは様々な分野の事業に進出しており、その業務内容や目標も幅があるにも関わらず、丁寧に各セクターごとに分類された事業戦略が掲載されており非常にわかりやすく企業の方向性が示されているように感じた。特に、すべての事業分野の根幹として持続的な成長を大きく掲げており、随所から無理のない持続可能な開発を重視して社会貢献も果たそうとする意欲的な姿勢が滲み出ている。具体的にサステナビリティ戦略についての取り組みでは、取り組みを17個ものマテリアリティに分類した上で、独自のKPIsという指標を策定して、2022年度の目標を掲げている点が、表向きの環境問題対策に留まらないよう自ら厳しく律しているように感じられ好印象であった。

2．この会社の競争優位性が理解できるか
JVCケンウッドグループは3つの事業分野を持っており、それぞれの分野でトップシェアを誇る製品群を保持しているところにある。KENWOOD　JVC　Victorのブランドはいずれも独自性が高く、グループでノウハウを共有してはいつつも全く異なる価値創造を行なっているため、流行によらずグループとしての安定性が高いのも強みである。
また、近年のデジタル化の加速やリアルとデジタルの融合を象徴するメタバース市場への関心の集まりと言った流れにも相性が良く、AIやIoTなどでの新技術やビジネルモデル自体の構築にもイニシアチブを取りやすい。

3．その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか
統合レポート全体を通じてサステナビリティ戦略に重点をおいた企業経営が行われており、中長期的な持続性には信頼がおけると感じた。一方、短期的にみるとコロナ禍や貿易摩擦、ロシア軍の動きに伴う市場の変化といった政治的な変動によって最も影響を受けやすい分野であることは間違いなく、世界的な半導体不足や円安によって原材料の不足、利益率の低下を防ぐことは難しいように思えるが、持続可能な生産の理念のもとに今年度の経営は後期で回復しており、企業としての努力が結果に表れているということではないだろうかと思う。また、中期経営計画『VISION2023　という計画を立てており、特にコロナ禍でDXによる技術革新が目まぐるしいこの3年間にあっても、たくましく、したたかに変革と成長を遂げていくという理念のもと、ROE向上やwith/afterコロナの戦略商品の開発に努めており、安定的な成長の持続性には問題無いように感じられた。

4．この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか
近年のコロナ禍に伴う急速なDX技術の発展加速はまさに時代の先端をいく分野であるとともに、環境問題と向き合い、社会が持続可能な開発計画を立てていく上で欠かせない技術発明を担うような企業がまさにJVCケンウッドであり、社会貢献を果たせると同時に国内外の他社とも激しい競争を繰り広げなくてはならないという点で、自身も成長する場が十分に提供されている企業であるように思える。

5．報告書にはどのような改善余地があるか
報告書では働き方改革について触れているセクターはあったものの、内容は具体性が少ないように感じたため、社内の声を取り入れるなどする部門を設けて、具体的にどんな制度

を欲しているのか二ーズに合った改革の案を示せると良いと感じた。